南部ニテホシクソト云、又黄色白色ナルモノアリ、皆毒物ナリ、

〔武江産物志 蕈〕鬼筆（きつねがきふで）

〔多識編 三 葉〕葛花茱、和名久須多計、異名葛乳、

〔庖厨備用倭名本草 五 芝栖〕葛花茱　倭名抄ニ葛花茱ナシ、多識篇ニクズタケ、考本草、一名葛花乳、名山ニ皆アリ、葛ノ精華也ト云フ、秋霜空ニウカビテ芝蕈ノ如ク地上ニ生ズ、其色赤クシテモロシ、蕈ノ類ナリ、元升（向井）曰、此説ヲミレバ、北國ニイヘル霜コシナルベシ、寛文七年十月初旬、余タマタマ北國金澤ニ客タリシ時、此シモコシヲ食ス、目ナレヌタケナレバ、其名ヲ問ニ答テ云、此タケハ霜コシト云、山野ニ霜ノ後ニ生ズル故ニ、カク名付ラレテ候ト、色味本草ノ説ト稍同ジ、其毒ナシトイヘルモシルシヲ得タリ、風味ナメスヽキノ如シ、

〔重修本草綱目啓蒙 二十 芝栖〕葛花茱　クズダケ　一名葛蕈（廣東新語）

葛ニヨリテ生ズル菌ナリ、色赤シ、

〔日本山海名産圖會 二〕石茸

葛花茱（くずはなたけ）、葛の精花にして、紅菌も此種類なり、是に一種春生ずるものを、鶯菌又さゝたけといひ、丹波にて赤蕈、南都にて仕丁（したつ）たけ等の名あり、

〔庖厨備用倭名本草 五 芝栖〕藿菌（くわうきん）　倭名抄ニ藿菌ナシ、多識篇或云シメジ、考本草、藿ハ蘆葦ノタグヒ、此菌其ノ下ニ生ズ故ニ名ヅク、色白クシテ輕虚ニ表裏相似テ衆菌ト同ジカラズ、元升（向井）曰、藿菌ハ蘆葦藿ノ下ニ生ズトイヘバ、澤中ニ生ズルナリ、シメジハ山ニ生ズ、松ダケノ生ズルガ如シ、然レバ藿菌ハシメジトイヒガタシ、

〔重修本草綱目啓蒙 二十 芝栖〕藿菌　オギタケ（信州）　ヨシダケ（筑後）　一名白藿蘆（東醫寶鑑）

季秋好テ蘆荻叢中ニ生ズ、形小クシテ玉蕈ノ如ク、灰白色食フベシ、